会報
53号
れきふー
函館の歴史的風土を守る会会報
No.53　H8.3.1
発行所　函館の歴史的風土を守る会
事務局　函館市五稜郭町43－9
五稜郭タワー株式会社内（中田）
電話（0138）51－4785
印刷所　㈲三和印刷　電話45－0845

今年も大盛況でした

第18回 函館の町並みを美しくする
新春チャリティ・パーティ盛大に開催される

歴風会が総力を結集するメイン・イベントの「第18回函館の町並みを美しくする、新春チャリティ・パーティ」は去る2月16日、午後6時30分より五島軒本店で開催された。

今年度は、ロシア極東国立総合大学函館校のネザムドヂノフ・ヴィクトル校長を実行委員長、エレーナ・アレクサンドロヴナ・テルヴーシナ同夫人を副実行委員長に迎え、国際色豊かなパーティとなった。しかも夫婦の正副実行委員長誕生は歴風会はじまって以来のことであった。

当日は吹雪まじりの最悪の天候であったが、予定の300名を超える参加者で大盛況を呈した。

「古い町なみのある街には文化がある」と云う委員長の流暢な日本語での挨拶に会場は静まり、大きな感動を与えた。

今年は別記（次頁）の通り、保存建築物3件、再生保存建築物1件が歴風文化賞を受賞し、函館市民の心に深く焼付いている原風景に、夏の風物詩、津軽海峡の「いさり火」が選ばれた。地域の環境保全に活躍する団体として、函館工業学校の地道な調査活動が高く評価された。「函館の町から情報発信の紹介」では、ロシア極東国立総合大学函館学校の関係者が総出演で同校のＰＲにつとめ、石田勉（日中親善協会々長）から訪中チャーター便の紹介等があり、俄に国際色あふれる大会となった。

席上、昨年度のパーティの益金15万円が市長の代理で出席した丹藤助役へ、函館市の「歴史的町並み基金」として手渡された。

尚、今年度の歴風文化賞には、新進からくり細工師、谷目基氏が作製したナラ材の賞状楯が贈られた。

恒例のアトラクションは、対馬会員の日舞「松」が開会を告げるオープニングショーとなり、今盛りの「フラメンコ・ミハス」によって「ソレア」「タンゴ・デ・マウガ」等が力強いリズムで繰り拡げられ、会場を魅了した。

函館の代表的景観をたたえる原風景部門には、夏の風物詩、津軽海峡のいさり火が選ばれた。

津軽海峡のいさり火

＝原風景宣言＝
いさり火

夏から冬にかけて、津軽海峡の夜空を照らし、水平線上に光の帯の揺れる様子が函館山や大森浜で見られる。これが〝いさり火〟で、集魚灯を満載したイカ釣り船の作業風景だ。

〝いさり火〟の歴史は古く万葉集にも見え、篝火(かがり火)を焚き魚を取る様を表現していた。当時のほのかに揺れる灯火と現代のそれは比較にならぬほど強力だが、これもまた〝いさり火〟だ。

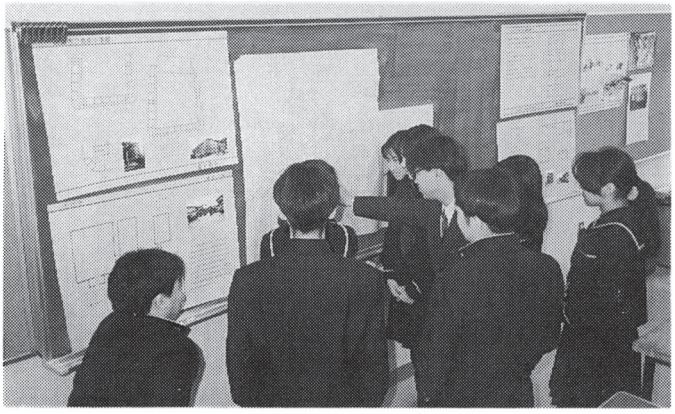
取れたてのイカを「イガー　イガー」と売り歩く姿を見ることはなくなったが、夏の風物詩でもある〝いさり火〟は、やはり函館の原風景であり、ここに宣言する。

保存建築物　中央荘

今も活用している中央荘

団　体

函館工業高



調査結果を発表する生徒達

＝団　体　賞＝
北海道函館工業高等学校

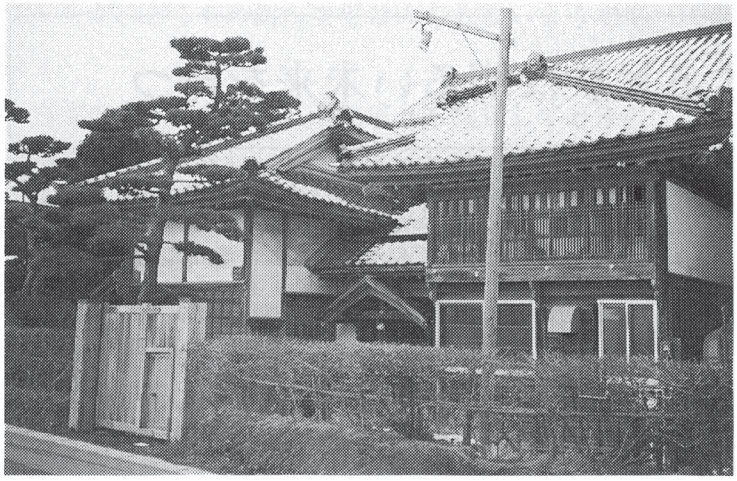
昭和43年十勝沖地震を契機に、函館市西部地区の歴史的建造物の実測調査を、建築科の生徒が中心になり実施して図面を作製してきた。平成7年度には、建物の年代、構造、家族構成、建築当時の用途や今後の使用等について、聞き取り調査を行なうなど地道な活動を続けている。

＝保存建築物＝
中央荘（豊川町）　小野智津子氏

大正10年建築の鉄筋コンクリート3階建。

現在は旅館として転用されているが、もとは呉服問屋と薬店が入居していた。

昭和9年の大火にも類焼をまぬがれたのは鉄製防火扉の効果と云われている。



和洋折衷のたたずまいの平塚邸

平塚邸

＝保存建築物＝

平塚邸（湯川町）
平塚千鶴子氏

和風住宅・洋風住宅・湯殿等の属屋を廊下でつないだ、木造2階建瓦葺き別荘風住宅である。和風部分は明治40年頃、洋風部分は大正元年に建立され、後に現在地に移築されている。共に大規模で装飾性の高い建築物である。

＝保存建築物＝

前田邸（弁天町）
前田 嘉津氏
（旧杉野商店）

明治11年建造の土蔵造り2階建。2階両側の袖壁は昭和43年の十勝沖地震の時撤去された。2階窓が円形の鉄扉付で、戸袋に石張りの意匠が施された洋風様式が随所に取り入れられた建造物である。

西部町並みに潤いを与えている前田邸

前田邸

再生保存建築物

海同会館

見事に再興された海同会館

＝再生保存建築物＝

海同会館（末広町）
石塚與喜雄 氏
（函館海産商同業協同組合会館）

大正9年に建築された木造3階建である。平成5年の北海道南西沖地震や老朽化で損傷が進み、解体の方針が打出されたが、石塚氏の尽力で、再生保存の運びとなり、氏の貢献は極めて高いものがある。

＝歴風文化賞選考基準＝

① 建物自体の貴重性。
② 持ち主が長年保存への努力を続けている。
③ 景観への寄与。
④ 歴史性。
⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果が大きい。
⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。

歴史的記念物を大切にする民族は明るい未来を持つ

「歴史的記念物を大切にする民族は明るい未来を持つ」という表現があります。これは非常に深い意味を持つ言葉であるように思われます。たとえば、歴史的記念物を写真や模型で記録することは可能ですが、歴史的雰囲気までは記録する事はできません。直接目にしない限り伝えることができないモノは存在すると思います。

夫唱婦随の名コンビ

数年前、私が初めて来函したおりに、旧ロシア総領事館を訪れました。昔のままの建物・昔のままの庭園、昔のままの垣根などを眺めて、当時の雰囲気にひたり、また強く関心をもちました。写真を見るだけではこうした事を伝えるのは不可能だったでしょう。

歴史的な建造物の復元や保存に努めることは、大きな教育的意義を持つといえます。若い世代にとってはなおさらです。未来のつまり21世紀はこの若者たちのものだからです。

近代都市の姿かたちは、どれもにたりよったりだとよく言われます。しかし、函館は独特な雰囲気を持つ街です。100万ドルの夜景の街ということはさておいても、生きた歴史を体現している街といえるでしょう。観光地としての未来もあり、まさに歴史と現代が密接に結びついている街だと思います。このことから、函館の歴史的風土を守る会の皆さんの活動は本当に意義があると思います。

第18回・函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティの実行委員長として私を選んでいただいて、たいへん光栄に思います。200人以上の函館市民が一同に集まるなか、1年間の活動の結果が発表されました。その会場に選ばれたのは、その建物そのものもこの街の歴史的な建造物といえる五島軒本店でした。

歴史は日々作られています。その意味で、今年開校3[illegible]目を迎えるロシア極東国立総合大学函館校も、函館の、[illegible]らには日本とロシア間の歴史の1ページを作っているのです。函館といいますと、日本で初めてのロシア総領事館、初めてのロシア正教会などが思い浮かびますが、ここに新たに、初めてロシアの大学という項がつけ加えられました。

函館校はまだ歴史の浅い教育機関ですが、私達の課題の一つとしては未来の歴史の芽を大事に育てなければなりません。

この機会を利用して、歴史的風土を守る人々に心から感謝しております。

Виктор Незамутдинов

（ネザムトヂノフ・ヴクトル
ロシア極東国立総合大学函館校校長）

協賛商社のみなさま ありがとうございました。

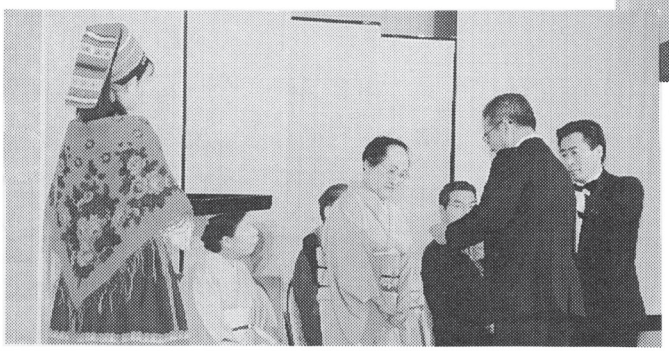
チャリティパーティの御協力商社御尊名

（順不同・敬称略）

- 函館西武
- コカコーラ
- 文雅堂
- カメラのたねざわ
- テーオー小笠原
- カネマル
- ムロタ
- 末広堂
- はこだてわいん
- 函館山ロープウエイ
- 三和印刷
- 平方亮三
- 昭和製菓
- ＢＡＹはこだて
- 生田ガラス館
- 不二屋本店
- カメラのニセコ
- イトーヨーカドー
- ナシオ
- 第一食品
- サッポロウエシマコーヒー
- 五稜郭タワー
- 大槻食材
- 五島軒
- 宮腰善行
- カメラのタケダー

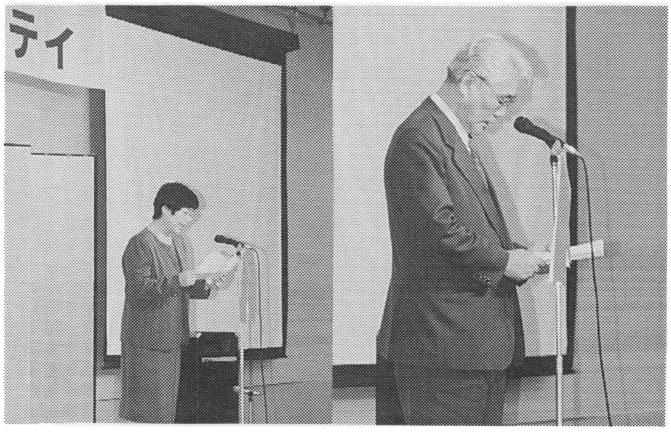
国際色豊かな受付風景

受賞者を前に浜島会長挨拶



受　賞　風　景

石塚氏の謝辞



原風景宣言を朗読する古川会員　　丹藤助役の謝辞

恒例となった対馬会員の「松」

町並み基金の贈呈式

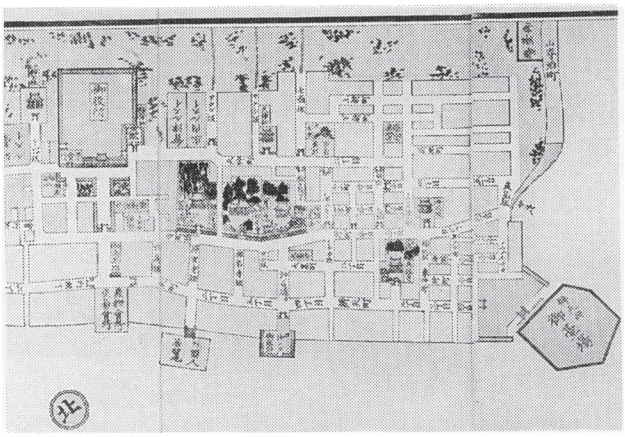
賑やかなフラメンコ・ミハスのダンス

失われる箱館外人居留地

北海道教育大学非常勤講師　千代　肇

あるとき、〝函館はいい街ですね、何冊か本を買って読みましたが、何かよい歴史の本はないでしょうか。〟函館に赴任して来客に説明するにも是非知っておきたいといわれた。函館図書館や函館市史編さん室の話もしたが、研究者でも専門家でもないからと遠慮された。さりげない話のように聞こえたが、見ず知らずの電話に考えさせられるものがあった。

国際観光宣言都市、国際的歴史ある函館、町並みと歴史的施設の保存と文字にみえるが、函館市は積極的取組をしているのであろうか。伝統ある市立函館博物館の展示に先史から江戸・幕末、箱館開港から明治、そして現代を知る通史的流れを見ることはできない。館内の冬は、暖房設備がなく室温0度から4度で観客は寒さに驚き、貴重な資料保存管理さえ心配させられる。市の観光案内所にも函館の幕末・明治や箱館開港の様子などを気楽に読める本は並べられていなかった。図書館の拡大と充実もよいが、観光客や一般が国際的歴史の函館、蝦夷地・北海道の政治経済の中心的役割を果した函館を何処で知ることができるのであろうか。



「官許箱館全図」(市立函館図書館蔵)

観光客が多い元町が環境整備されたが、元町公園の石段を上ると旧函館区公会堂、旧開拓使文書庫、旧渡島支庁の修復がみえる。これらは明治の建築物である。石段の上に粗末な木の標柱に〝箱館奉行所跡〟とある。

箱館奉行所は、江戸幕府の初めて蝦夷地警護と経営のために奉行を任命して千島エトロフまでの漁場経営や田畑の開墾などにかかわり、箱館が政治的経済的な中心地となった。幕府は東蝦夷地から西蝦夷地の全島を直轄するが、松前藩に復領させた後にペリー来航で、1855(安政2)年に再び幕府直轄となり、箱館奉行が任命されて箱館開港となる。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの軍艦・商船・捕鯨船が入港して伊豆下田と長崎にならんで北の重要な開港場となり、箱館奉行に幕府の要職にあった人達が派遣された。1859(安政6)年には貿易が認められ、幕府は西欧諸学術研究と教育を目的とした武田斐三郎の諸術調所、洋式船の建造、箱館医学所、外国人居留地の大町築出地の構築、外国船出入や物資の輸出入に関する運上役所、各国領事の着任と他の開港都市にみられない特色をもつようになったが奉行所の説明がない。

箱館開港の歴史は横浜・神戸より早いが、何故か函館市の開港記念日は1859(安政6)年をもとにし人々はそれを信じている。

改めて函館の歴史遺産を考えたとき、認識の貧困を指摘されてもやむをえない。

〝いま、箱館外人居留地が失われようとしている。〟観光地図にもない外人居留地が、青函博のとき緑の島をつなぐ道路で西側が埋め立てられ、今度は函館港再開発・西部ウォーターフロント計画で、現存する築出地がなくなってしまう。学び、見る、憩う、話す楽しみは、歴史遺産を破壊しての憩う楽しみなのであろうか。

函館市港湾部による昨年3月の説明会で、新島襄函館脱出の碑移動に関連して外人居留地の保存を提

案したが、どうも計画の変更はみられないようである。

日本の土木学会では、運輸省とも関係して幕末の港湾土木施設の研究と保存を実施している。函館では高田屋船作事場などが調べられているが、箱館外人居留地は護岸・波戸場が当時さながらに存在し、日本の港湾土木学会では函館の地域振興のため公共計画と遺構保存活用が望まれている。日本の江戸幕末の港湾土木技術が現代より勝れていたようだ。

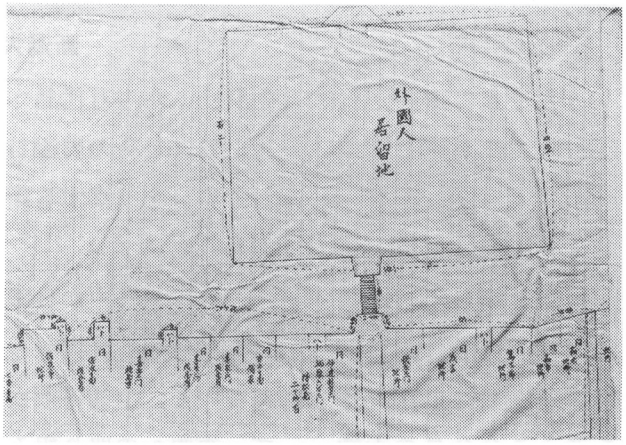
外人居留地の出島は長崎にあり、発掘で陶製のパイプなどが出土しているが、函館ではガラス製ボトルがスコット倉庫跡で出土しているので当時の資料が埋れているといえる。

1860（万延元）年、箱館奉行が外国人居留の看視から大町築出地が竣工した。海中を埋め立てた2千坪の築出地は、40間に50間で往来道舗を中央と周囲に設けて、10区画を外国人に貸渡した。1861（文久元）年イギリス人のアレキサンダー・ポップ・ポーターをはじめアメリカ人やロシア領事のヨシフ・アントノヴィ・ゴシケヴィチが土地を借りていた。港に面してボートをつける波戸場が設けられていて、新島七五三太（襄）が福土屋卯之吉（成豊）の手引きで、この波戸場から脱国した。大町築出地は橋がかけられていたが、馬車鉄道が運行の頃に埋め立てられて道路となった。現存する石垣と石造りの波戸場（荷場護岸）は開港当時のままである。

外人居留地に長期滞在したのは、貿易商人のA・P・ポーターで、明治22年頃まで住んでいた。伝えられるところよると、外国船員専用のロシアホテルがあったというが、貿易が盛んな頃は、自由な外国人の街で賑ったことであろう。

外人居留地は、1864（元治元）年に地蔵町築島の埋立地にも広がり、イギリス人のT・W・ブラキストン、G・H・トムソン、アメリカ人のF・ウイルキーなどが貸渡を受けて製材所、造船所のほか貿易を行っていたが、この一帯の掘割も埋め立てられて当時を知ることはできない。

大町外人居留地は、相馬倉庫、函館公海漁業所有地になっているが、西400mほどに箱館港の中心となった沖の口御役所があった。江戸時代から港湾を取り締まる役所で、初めてロシアのディアナ号艦長ゴローニン提督らが1811（文化8）年に上陸し、次いで1854（嘉永7）年にアメリカの艦隊ペリー提督一行や領事として着任したロシアのゴシケヴィチ、イギリスのホジソンなど各国外国人が上陸した場所である。



箱館海岸分見絵図（部分）市立函館図書館蔵

国際観光都市、外国に旅行して歴史の重みを感ずるが、そこに自分の国の歴史があったら最初に訪れるであろう。函館は歴史的な外国人による国際都市であった。5カ国領事館めぐりも計画できるところであるが、箱館港の歴史的意義は大きく、失われようとしている外人居留地、遺産の保存と活用の姿勢が行政の認識の無さから失う代償は大きい。

【参考文献】

「文久元酉年従四月　大町築出地外国人江貸譲規則書」市立函館図書館蔵

田中啓爾「地図類より観たる函館居留地の変遷」陸水学雑誌第8巻

長尾義三・寺中啓一郎「箱館港の築島とその周辺状況」第8回日本土木史研究発表会論文集　昭和63年

清水恵「箱館開港、異文化との接触」函館市史通説編第二巻　平成2年

千代肇「新島襄日本脱出の背景－箱館と福士成豊について－」新島研究第63号　同志社新島研究会　昭和58年

開港5都市景観会議新潟大会に参加して

函館市都市建設部都市景観課　榎森隆介

安政5年（1858年）、日米修好通商条約により開港し海外に門戸を開いた共通の歴史と合い通じる土壌を持つ長崎・神戸・横浜・新潟・函館の5都市の市民団体が一同に会し、市民主体の「まちづくり」について意見交換し、論議する「開港5都市景観会議」は、神戸開催、長崎開催と回を重ね、当地新潟において第3回の開催を迎えた。

新潟会議は、平成8年2月3日から4日までの2日間の日程で、新潟市内及び市近郊の会場において開催されたが、新潟市内に折りからの大雪の残る中、「たべるお祭りさわぎ、’96にいがた冬食の陣」が行われており、市内中心部にある古町アーケード街は大変な人手で賑わいを見せていた。

1日目の全体会議は、万代橋を見渡せる信濃川河口の佐渡汽船5階大ホールを会場に、「越しの寒梅」など地酒がオープニングドリンクとして振る舞われる中、実行委員会会長の開会挨拶を以て始まり、基調講演に替えて、新潟の水辺を考える会会長の大熊孝氏による「新潟湊話」があり、新潟港や信濃川の河川整備についての歴史が話された。

また、新潟会議において初めて取り組む、2日目に予定されている5分科会（「ライトアップ・港町」、「開港5都市の祭り」、「港まちの景観を考える」、「万代シティから万代島へ、そして海へ」、「新潟の風、坂口安吾とその周辺」）の事前デモンストレーションが分科会を主宰する新潟の市民団体の代表によって行われた。

新潟冬の陣（食の祭典）

新潟大会の開会式風景

さらに、神戸から参加された市民団体代表からは、阪神・淡路大震災からの「復興神戸のまちづくり」について、全国各地からの救援・援助のお礼も含めて、復興への取り組みの状況報告があった。

この日は、関係アトラクションも用意され、市民の有志による柳都踊り、浜松太鼓などが披露され、来港者に対する新潟市民の熱い思いが伝えられた。

2日目は、市内および市近郊の各会場において五つの分科会が開催されたが、函館からは三つの分科会に参加した。

分科会「開港5都市の祭り（人間が作る都市景観）」では、元町倶楽部代表の村岡武司氏が函館の祭りの状況について報告し、特に「函館のイカ踊り」をはじめ「函館夜景の日」や市民創作野外劇「五稜星よ・永遠に」の取り組みについは、市民活動のあり方と都市景観における言わばソフトウェアの面について示唆を与えたものであり、参加者の関心と興味を引き付けるものであった。

また、「地域から若い力で新しい祭りを創造しよう。

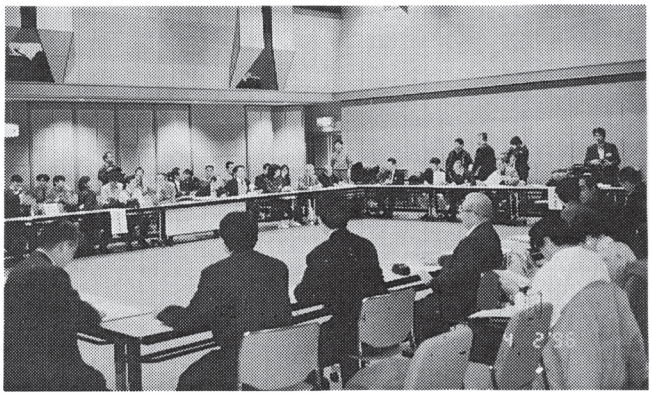
それが都市エネルギーのバロメーターだ。」などの意見が出され、熱い論議が展開された。

分科会「万代シティから万代島へ、そして海へ」では、函館の歴史的風土を守る会会長の浜島國四郎氏が函館港の優れた地形といち早く海外に門戸を開いて欧米文化を吸収した歴史を持つ西部地区ウォーターフロントの整備など函館港の港湾計画についての現況報告を行い、「港を再開発すると、目に見える歴史がなくなる。歴史的遺産を守るための措置が必要」などの意見が出された。

分科会「ライトアップ・港町」では、函館市の宇宮の宇都宮都市景観課長がファンタジー・フラッシュ・タウン計画に基づく各種施設、建築物のライトアップ実施をはじめ「函館夜景の日」、市民創作野外劇「五稜星よ・永遠に」など市民主体の、函館の夜空を彩る光と色のページェントについての報告をスライドを交えながら行った。各都市の状況報告を受けて、「ライトアップはただ明るくすることだけではなく、まちにどう明暗をつくるか。都市全体のプロデュースが必要だ。」などの意見が出された。

新潟市の万代市民会館を会場とした締め括りの全体会議においては、各文科会からの報告がなされ、これに引き続いて「固有の歴史を大切にし、個性あるまちづくりを主体的に実践していく」との大会アピールが宣言され、最後に次期開催地である函館を代表して浜島國四郎氏が歓迎する旨の挨拶を行い、開港5都市のまちづくり市民団体の意識と連帯を深めた開港5都市景観会議新潟大会は閉幕した。

おわりに、新潟大会を運営された新潟市の市民団体の熱意と御尽力に対して深く感謝の意を表したいと思います。



新潟大会まとめの全体会議

〔函館からの参加者〕

・函館の歴史的風土を守る会　会長　浜島國四郎
・元町倶楽部 …… 代表　村岡　武司
・函館市都市建設部都市景観課長 … 宇都宮幸雄
・函館市都市建設部都市景観課 …… 榎森　隆介

会員の皆様へ

おかげ様で、歴風会は来年、創立20周年を迎えます。
更に来秋には一大イベントである「開港5都市景観会議」の開催地として参加の予定もあります。
このような当会にとって記念すべき1つの節目である今年は、役員改選期に当ります。
新しい役員を迎えて、会員が初心にかえり、会の新しい時代を築いて参りたい、と云うのが、かねてからの私の持論です。
是非、会員皆様の御協力をお願い致します。
自選・他選を心から期待しております。

（※　5月末頃まで皆様のお声をお聞かせ下さい。）

平成8年3月
函館の歴史的風土を守る会　会長　浜島国四郎

海峡

「先代が気をつかって建てられた建物。その苦労が結ばれた思いです。」小野智津子さん(七七)はしみじみと語った。

「気をつかって建てられた」建物とは、函館市豊川町で「西部地区の歴史」をいまに伝える旅館・中央荘だ。先ごろ、十三回を重ねる「歴風文化賞」保存建築物部門の受賞建築物の一つに選ばれた。そのご主人・智津子さんは、ひとしおの感慨に浸る。

◇

一九二一年(大正一〇)の大火後に建てられた。防災面を配慮した、当時としては先駆的な鉄筋コンクリート造りの三階建て。三四年(昭和九)の大火には、これが威力を発揮して、内部の類焼を免れている。

「とにかく頑丈に建てられているので、造作を少し変えるのでも大変。費用もかかります。でも、先代の労苦を考えると、これからも頑張って保存していかなければ」

五〇年に嫁ぎ、四年後に呉服問屋から旅館に転業した。しかし、建物のたたずまいだけは変わらない。智津子さんの、それに寄せる思いも、いつまでも変わらない。

◇

中央荘界隈は、かつて函館で一、二の繁華街として、人々の喧騒に包まれていた。前を走るのは「銀座通り」だ。街並みのそこここに、にぎわった往時の面影が残る。

いま、夜間の人通りは数えるほど。朽ちかけた建物も散見される。「時の移ろい」と言ってしまえばそれまでだが、なんとなく寂しさが募る。

歴風文化賞の中央荘評は、「歴史的町並み保存に与えた影響大」、そして「その努力に敬意を表します」と称えている。異論はない。この賞の精神が、市民各層に浸透していくならば、西部地区の再飛躍にもつながっていくことだろう。

智津子さんは今年、腐食が進む鉄製の窓枠を補修しようと考えている。（治）

旅館「中央荘」界隈

よみうり　1996年（平成8年）2月27日（火曜日）

インフォーメーション

◇ **平成8年3月22日**
14：00～17：00　金森ホール
「メッセージ21　日本海セミナーin　おしま
～夕ばえの海からのメッセージ」
交流会（17：30～19：00　¥ 4,000）

◇ **平成8年9月28日～30日**
第19回全国町並みゼミ犬山大会

グループだより

◇ **おおの**　No.42
文化交流会－渡り鳥の渡りのナゾを負う
相　馬　正　樹　氏

◇ **報** 日本ナショナルトラスト　No.323
特集－景観条例を考える

◇ **Ponte** 1995.秋. No.5
特集　世界のうごく橋
東京の動く橋の設計者、山本卯太郎
伊藤　　孝（工学博士）
世界のうごく橋　　小林　一郎（熊本大教授）

事務局日記

11月22日　岩手巴会より「考える会」宛、基金への賛同者22名分として22,000円受け、各人宛絵ハガキと礼状発送する。

11月29日　PM6：30　於タワー
第3回　運営委員会　チャリティーについて

12月1日　大野町文化財保護研究会、北海道ミニ明治村（佐々木泰之様）、中村正勝様へ礼状発送。

12月1日　「はこだて史譚」預金 101,600円
「考える会」預金 25,130円

12月16日　第1回チャリティー実行委員会
13：00　於五島軒本店
(1)正副委員長紹介
(2)P券配布について（後日）
(3)催事計画承認
(4)受賞者代表

12月21日　P券完成（6：00～9：30）佐々木会員事務所で（清野・佐々木・加賀谷・浜島）会員封筒詰め行う。
清野氏のかなりの分を配達される。

12月26日　市港湾部に上貞、千葉・吉村、浜島会員出向き、大町地区プロムナードの案内板の件で。

12月27日　「はこだての史譚」会計より13万円を三和印刷へ支払う。

《平成8年度》

1月4日　田尻氏よりTEL　千代先生に〝れきふう〟の原稿依頼される。

1月5日　千代先生の承諾を得る。田尻氏へTEL。

1月12日　「開港5都市景観会議」案内状受取る。景観課よりTELあり。

1月12日　弘前大学より学生2名、卒論資料集収の件で来宅。「歴風会とまちづくり」について学習。（約3時間）。

1月13日　飯田会員よりチャリティーのプログラムの「フラメンコ・ミハス」の訂正方TELあり－当日配布分を訂正する。

1月14日・2月4日　実行委員会の取まとめ方を田尻・落合会員にTELで依頼。

1月15日　「開港5都市景観会議」について、石井、宇野、吉村会員と1／19協議することをTELする。

1月18日　港湾部景観課で「5都市」の件で打合せ。

1月19日　「5都市」の件で石井・宇野・吉村・浜島会員で打合わせ。
チャリティーの原風景の件も討議する。

1月24日　道新に歴風文化賞の記事報道される。

2月3～4日　「開港5都市景観会議」（新潟会場）に浜島会長出席。
《元町倶楽部村岡氏、市より宇都宮課長、榎森係長が出席。》

2月4日　第18回チャリティーの第2回実行委員会、五島軒本店で開催。情報交換、当日の役割等について取決める。

2月16日　第18回新春チャリティーパーティ、6：30～9：30
約300名の参加を得て盛大に行う。
招待者、丹藤助役以下8人の出席を得た。
表彰者　4人（1人欠席）。
市の「町並み基金」に15万円也を贈呈。

編集後記

◇ 第18回チャリティーも無事終了した。悪天候なのに、昨年並みの参加者を得たことに厚くお礼を申し上げます。
◇ 特に今年は、準備不足もあって、担当者は一晩で10才も年令をとった程、緊張の連続であった思いがする。
◇ 毎年「来年こそは」と反省はするが、ついつい惰性に流されてきていることは否めない。
◇ この辺りで起死回生のホームランを願うより、会員一人ひとりが確実に自己の持場を守ることの方がより大切なのではなかろうか。
◇ 本号には、千代・榎森両先生より玉稿を賜わり、写真は吉村・飯田・榎森会員の提供によりました。厚く御礼申し上げます。（落合記）